

付

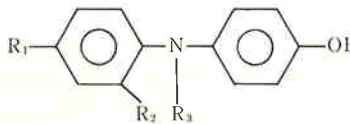
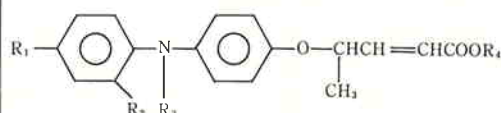
特許・実用新案登録一覽

—昭和61年度—

〈日本特許〉 70件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	51-113721 (51. 9. 24) (川上 平野)	60-10097 (60. 3. 15) (登, 後藤 逸雄)	1297283 (61. 1. 20) (武司 洋一)	金属マグネシウムの製造装置	1 マグネシウム酸化物を高温炭素還元し, 得られた反応生物を大量の不活性ガスと接触させて急冷し, 金属マグネシウムを製造する装置において, 一方の側の炉壁の上部に反応物出口を, 又, 前記炉の中心軸を基準として, 前記反応物出口に略相対する位置の他方の側の炉壁に, ガス導管内径より小なるガス噴出口径を持つ前記不活性ガス吹込ノズルを設けたことを特徴とする金属マグネシウム製造装置。
2	52-72086 (52. 6. 20) (林 清水)	60-21602 (60. 5. 28) (隆夫, 坂中 明彦)	1297291 (61. 1. 20) (靖弘)	粉末状ポリクロロプレ ンゴムの製造方法	1 ノニオン性もしくはアニオン性のポリクロロプレ ンゴムラテックスに, その乾燥重量当り, 1~10重量%のメチルセルロースもしくはヒドロキシメチルセルロースおよび1~20重量%のアルカリ金属の硫酸塩もしくは炭酸塩を水溶液として加えて得られる混合物を, 該ポリクロロプレ ンゴムラテックスの乾燥重量当り1~20重量%のアルカリ金属の塩化物もしくは硝酸塩を含む水溶液中に滴下混合してゴムを粉末状に分離させ, ついでこれにガラス転移温度が30°C以上の合成樹脂を該ポリクロロプレ ンゴムの乾燥重量当り1~40重量%の範囲でエマルジョンとして加え, 脱水, 乾燥することを特徴とする加工性のすぐれた粉末状ポリクロロプレ ンゴムの製造法。
3	53-91834 (53. 7. 27) (磯和 森 野中 小山 西村)	60-22918 (60. 6. 4) (義員, 大森 馨, 市川 悠次, 木原 清孝, 佐藤平次郎 滋哲)	1298289 (61. 1. 20) (宗樹 哲也 啓一 平次郎)	N-ベンジルオキシカル ボニール-L-アスパル チル-L-フェニルアラ ニンメチルエステル とフェニルアラニンメ チルエステルとの付加 化合物の製造方法	1 N-ベンジルオキシカルボニールアスパ ラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルを金属プロテアーゼの存在下に水性媒体中で反応系を 実質上静置状態に保持して反応させて, N- ベンジルオキシカルボニールアスパラギン酸と フェニルアラニンメチルエステルとのジペプチ ドエステルを生成させ, さらにこのジペプチド エステルとフェニルアラニンメチルエステルと の付加化合物を形成させることを特徴とするN -ベンジルオキシカルボニール-L-アスパルチ ル-L-フェニルアラニンメチルエステルとフェ ニルアラニンメチルエステルとの付加化合物の製 造方法。
4	53-91835 (53. 7. 27) (磯和 森 野中 小山 西村)	60-22919 (60. 6. 4) (義員, 大森 馨, 市川 悠次, 木原 清孝, 佐藤平次郎 滋哲)	1298290 (61. 1. 20) (宗樹 哲也 啓一 平次郎)	N-ベンジルオキシカル ボニール-L-アスパチ ル-L-フェニルアラ ニンメチルエステルと フェニルアラニンメチ ルエステルとの付加化 合物の製造方法	1 N-ベンジルオキシカルボニールアスパ ラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルを水 性媒体中で金属プロテアーゼの存在下で反応さ せて, N-ベンジルオキシカルボニールアスパ ラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルと のジペプチドエステルを生成させ, さらにこの ジペプチドエステルとフェニルアラニンメチ ルエステルとの付加化合物を形成させ, その際反 応媒体中のフェニルアラニンメチルエステルの 濃度が少なくとも約 10^{-1} モル/lとなる様維持 し, ジペプチドエステルとフェニルアラニンメ チルエステルとの付加化合物を分離採取するこ とを特徴とするN-ベンジルオキシカルボニール

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>L-アスパルチル-L-フェニルアラニンメチルエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物の製造方法。</p> <p>2 N-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルを水性媒体中で金属プロテアーゼの存在下で反応させて、N-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルとのジペプチドエステルを生成させ、さらにジペプチドエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物を形成させ、その際反応媒体中のフェニルアラニンメチルエステルの濃度が少なくとも約10^{-1}モル/lとなる様維持し、ジペプチドエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物を分離採取し、液相にN-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸およびフェニルアラニンメチルエステルを加え、さらに必要に応じて金属プロテアーゼを追加してN-ベンジルオキシカルボニル-アスパラギン酸とフェニルアラニンメチルエステルとの反応および付加化合物の分離採取を繰り返すことを特徴とするN-ベンジルオキシカルボニル-L-アスパルチル-L-フェニルアラニンメチルエステルとフェニルアラニンメチルエステルとの付加化合物の製造方法。</p>
5	51-106720 (51. 9. 8)	60-23649 (60. 6. 8)	1298967 (61. 1. 31)	臭化水素酸による臭化メチルの製造方法	<p>1 臭化水素酸とメタノールより臭化メチルを製造するにあたり、触媒として硫酸水溶液を用いて、臭化水素酸とメタノールをモル比で、$\text{CH}_3\text{OH}/\text{HBr} > 1.0$ となるように反応帯域に導入反応せしめることを特徴とする臭化メチルの製造方法。</p>
6	52-72085 (52. 6. 20)	60-21601 (60. 5. 28)	1298975 (61. 1. 31)	粉末ゴムの製造方法	<p>1 アニオンもしくはノニオン性のゴムラテックスに、その乾燥重量当り、5~20重量%のポリメチルビニルエーテルおよび5~20重量%のアルカリ金属の硫酸塩もしくは炭酸塩を水溶液として加えて得られる混合物を、該ゴムラテックスの乾燥重量当り5~20重量%のアルカリ土類金属の塩化物もしくは硝酸塩を含む水溶液中に滴下混合して、該ゴムラテックスからゴムを粉末状に分離させ、ついでこれに該ゴムラテックスの乾燥重量当り1~40重量%のガラス転移温度が30°C以上の合成樹脂をエマルジョンとして加え、脱水、乾燥することを特徴とする粉末ゴムの製造方法。</p>
7	54-6135 (54. 1. 24)	60-23776 (60. 6. 10)	1298997 (61. 1. 31)	陽イオン交換膜の製造方法	<p>1 フッ素系共重合体より成る膜状物に存在する置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{COOM}$ (MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, $n=2\sim5$) より導びかれた置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{I}$ ($n=2\sim5$) を $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{SO}_2\text{Z}$ (ZはOM, 又はNMR, MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, RはH, $\text{C}_1\sim\text{C}_5$のアルキル基, 又はフェニル基) に変換することを特徴とする、存在する交換基の種類によつて隣接する層と区別される、実質的に表面に平行な二つの層から成り、一方の層に下記側鎖(a)からなる構造をもつカルボン酸基を有し、他の層には下記側鎖(b)なる構造をもつフッ素系陽イオン交換膜の製造方法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					(a) $-O(CF_2)_nCOOM$ (MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, $n=2\sim5$) (b) $-O(CF_2)_nSO_2Z$ (ZはOM, 又はNMR, MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基, RはH, $C_1\sim C_5$ のアルキル基又はフェニル基)
8	55-169503 (55. 12. 3)	60-23778 (60. 6. 10)	1299016 (61. 1. 31)	陽イオン交換膜の製法 (梅本 照雄, 朱山 秀雄) (相模中央化学研究所と共願)	1 末端基 $-(CF_2)_nI$ (式中 $n=1\sim6$ の整数) を有するパーフルオロカーボン重合体膜を有機過酸で処理したのち, 続いて加水分解することによって該膜中に, $-COOM$ で表わされる基 (式中Mは水素原子あるは金属原子から選ばれる) を導入する陽イオン交換膜の製法。
9	56-50581 (56. 4. 6)	60-23124 (60. 6. 6)	1299021 (61. 1. 31)	接着方法 (西崎 克巳, 森下 延男)	1 塩化ビニル系樹脂と塩化ビニル系樹脂あるいは他の基材を接着する方法においてエチレン—酸化炭素—酢酸ビニル共重合体を接着剤として用いることを特徴とする接着方法。
10	56-91584 (56. 6. 16)	60-24784 (60. 6. 14)	1302235 (61. 2. 14)	4-[4-(アニリノ) フェノキシ]-2-ペンテン酸誘導体の製造方法 (続木 建治, 魚谷 武, 野中 悠次)	1 一般式  <p>(式中 R_1 は塩素原子, 臭素原子またはトリフルオロメチル基, R_2 は塩素原子, 臭素原子またはニトロ基, R_3 は水素原子, 低級アルキル基または低級アルケニル基を示す) で表わされる4-(アニリノ) フェノール化合物と</p> <p>一般式 $CH_3-CH-CH-CH_2COOR_4$ $\begin{array}{c} \quad \\ X \quad X \end{array}$ (式中 R_4 は水素原子または低級アルキル基, X はハロゲン原子を示す) で表わされる3,4-ジハロペンタン酸誘導体を溶媒を用い, 或いは用いることなく脱ハロゲン化水素試剤の存在下で反応させることを特徴とする一般式</p>  <p>(式中 $R_1\sim R_4$ は前記と同じ意味を示す) で表わされる4-[4-(アニリノ) フェノキシ]-2-ペンテン酸誘導体の製造方法。</p>
11	56-179612 (56. 11. 11)	60-26497 (60. 6. 24)	1302237 (61. 2. 14)	陽イオン交換膜の製造方法 (清田 徹, 折坂 克則, 朱山 秀雄)	1 カルボン酸基層を有する陽イオン交換膜において, 該層上に, $0.01\mu\sim5\mu$ の厚さの範囲で, スルホン酸基を含む層を形成させ, 続いて該層上に化学メッキを施すことによつて, 金属を固着することから成る陽イオン交換膜の製造方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
12	49-148659 (49. 12. 27) (永野 峰雄, 吉田 竹林)	60-20367 (60. 5. 21) (永野 峰雄, 吉田 忠夫)	1304061 (61. 2. 28) 広	塩化ビニルモノマーを 分離回収する方法	1 メチルクロライドを含む塩化ビニルモノマーから塩化ビニルモノマーを分離回収する方法において、メチルクロライドを含む塩化ビニルモノマーを活性炭層に導入し、前記活性炭が塩化ビニルモノマーで破過される以前に前記塩化ビニルモノマーの導入を止め、ついで前記活性炭層に不活性ガスを導入してメチルクロライドを展開して分離し、ついで活性炭層から塩化ビニルモノマーを回収することを特徴とする方法。
13	56-16815 (56. 2. 9) (西崎 克巳, 森下 延男)	60-31350 (60. 7. 22)	1308421 (61. 3. 26)	接着剤組成物	1 エチレン含有量が65~99%モルでありケン化度が5~100モル%のエチレン酢酸ビニル共重合体ケン化物100重量部に対し、ポリ酢酸ビニル0.5~50重量部を配合してなる接着剤組成物。
14	52-29250 (52. 3. 18) (三宅 寛, 天満 覚 本田 昭, 田中 義雄)	60-4241 (60. 2. 2)	1310309 (61. 3. 26)	表面被覆材用金属成型 体	1 クロム塩を含む溶液を有機溶媒にて抽出精製し得られたクロム塩溶液又は該溶液から得たクロム塩を酸化し、得たクロム酸化物を還元して得た高純度金属クロムを加圧成型した、スパッタリング蒸着、イオン蒸着又は電子蒸着による表面被覆用クロム成型体。
15	48-107627 (48. 9. 26) (大橋 孝一, 高橋 勇治 鈴木 孝)	60-31226 (60. 7. 20)	1310951 (61. 4. 11)	静電塗装用アクリル系 粉体塗料組成物の製造 法	1 一般式 $\begin{array}{c} R_1 O \\ \parallel \\ CH_2=C-C-O-R_2 \end{array}$ (R ₁ はH, 又は CH ₃ 基, R ₂ は炭素数1~18の炭化水素基を示す) で表わされる一種以上のアクリル系単量体, またはこのアクリル系単量体と共重合し得る一種以上の単量体とを, 水性媒体中, 全単量体に対して5重量%以上20重量%未満の界面活性剤および顔料の存在下に, 更に必要に応じ, 紫外線吸収剤, かつ安定性向上剤, 分子量調整剤, 流動性向上剤および硬化剤を添加し, はげしい攪拌のもと, すなわち, タービンブレード形の羽根をもつ攪拌機を用い200~1200 rpm 程度の攪拌のもとに乳化重合させ, 直径30~250ミクロン, 体積固有電気抵抗 10 ⁹ ~10 ¹⁶ Ω·cm, 嵩比重0.2以上の実質的に球状よりなる重合体を得, 次いでこの重合体を水性媒体中から機械的に分離取得することを特徴とする静電塗装用アクリル系粉体塗料組成物の製造法。
16	50-115463 (50. 9. 23) (ジョン・リン・パーク レイ)	60-39437 (60. 9. 5)	1316347 (61. 5. 15)	流出液の有機炭素含有 量低下方法	1 水性のアルカリ性媒質中で3,4-ジクロロブテン-1を脱塩化水素してクロロブレンを生成させ, 次いで有機物質の大部分を蒸溜および(または)傾瀉により除去した後の水性の流出液を処理する方法において, 上記流出液を液相として保持するに十分な圧力下 100°C 以上の温度において, 少なくとも最初は pH 9~14 のアルカリ性条件下で, この流出液を塩素をもって処理することを特徴とする上記の方法。
17	52-155618 (52. 12. 26) (大木 淳雄, 三浦 正道 川上 登, 長谷川 孝 川上 勝)	60-44068 (60. 10. 1)	1318072 (61. 5. 29)	金属肉盛装置	1 (1)粉末状, 棒状, 板状等の形状をした肉盛用金属を通過させる孔を有する巾広の金属供給誘導管, (2)上下に導通したスリット状開孔部を有し, 該スリット状開孔部は, 前記金属供給誘導管を挿入内蔵し得る大きさである金属供給ノ

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					ズル本体および(3)上記金属供給ノズル本体の両側面又は片側面に設置した、該ノズル本体と概ね等しい巾を持つ火炎噴出ノズル(加熱部)を一体化してなることを特徴とする金属肉盛装置。
18	53-157590 (53. 12. 22) (坂本 木原)	60-39255 (60. 9. 5) (関沢 啓一)	1318092 (61. 5. 29) (和彦)	メタクロレインの製造方法	1 イソブチレンまたは第3級ブタノールを分子状酸素により気相接触酸化してメタクロレインを製造する際に、一般式 $Mo_aCo_bFe_cBi_dTi_eX_fY_gZ_hO_i$ (ここでXはVおよび(または)Nb, YはLa および(または)Ce, ZはCs および(または)Te であり、添字 a, b, c, d, e, f, g, h, i は各元素の原子比を表わす。) に於て、 $a=12$ のとき、 $b=3\sim 15$, $c=0.4\sim 5$, $d=0.4\sim 5$, $e=0.01\sim 2$, $f=0.01\sim 2$, $g=0\sim 2$, $h=0\sim 2$, i は各元素の原子価によつて自然に定める数値であり、通常40~79の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物触媒を使用する事を特徴とするメタクロレインの製造方法。
19	54-66081 (54. 5. 31) (桂川 木原)	60-43051 (60. 9. 26) (属 秀雄)	1318094 (61. 5. 29)	m-フェノキシトルエンの側鎖の臭素化方法	1 臭素化剤として、一般式 $\begin{array}{c} W \quad Z \\ \quad \\ Br-C-C-Br \\ \quad \\ X \quad Y \end{array}$ (式中WおよびZは Cl または Br, X およびY は Cl, Br または H を表わす。) で示される化合物を用い、液相中で水の存在下、または不在下で、m-フェノキシトルエンの臭素化を行うことを特徴とするm-フェノキシトルエンの側鎖の臭素化方法。
20	55-96857 (55. 7. 17) (清田)	60-40514 (60. 9. 11) (徹, 佐藤)	1318106 (61. 5. 29) (孝男)	陽イオン交換膜の装着方法	1 陽イオン交換基を有するパーフルオロカーボン重合体からなる陽イオン交換膜を水と混和性のある有機溶媒で膨潤させ、次いで該膜を強固なわくに取り付けて該膜から該溶媒を除去したのち、電槽に該膜を装着する方法。
21	55-107094 (55. 8. 6) (大友)	60-40462 (60. 9. 11) (寛二, 藤木)	1318108 (61. 5. 29) (時男)	ポリエチレン成型品表面の塗料密着性改善処理方法	1 ポリエチレン100重量部に(a)式及び/または(b)式で示される界面活性剤を0.01~10重量部添加して成る基材 40°C 以上ポリエチレンの融点未満の温度にて熱処理した後オゾン処理をしエチレン酢酸ビニル共重合体50~90重量%と粘着性樹脂10~50重量%の混合物、カルボキシル化エチレン共重合体、エチレン-酢酸ビニル共重合体けん化物及びポリヒドロキシポリオレフィンから成る群より選ばれた少なくとも一種のプライマーを塗布することを特徴とするポリエチレン成型品表面の塗料密着性改善処理方法。 $(a) \begin{array}{c} R_1 \\ \\ R_2 \rightarrow N^{\oplus} (CHR_4)_n SO_3^{\ominus} \\ \\ R_3 \end{array}$ $(b) \left\{ \begin{array}{c} O \\ \\ R_5 - CNH(CH_2)_m N - CH_2COO \end{array} \right\}_x \begin{array}{c} CH_2CH_2OH \\ \\ -CH_2COO \end{array} M$ 但し、(a), (b)両式において各記号は以下の内容を示す。 R_1, R_2 ; $C_1\sim C_5$ の炭化水素基

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					R_3, R_5 ; $C_7 \sim C_{21}$ の炭化水素基 R_4 ; H又は OH n, m ; 1~7 x ; 1~3 M ; 有機アミンまたは Mg, Ca, Ba, Zn, Cd, Al, Sn, Pb, Mn, Fe, Co, Ni 及び Cu よりなる群から選ばれた金属
22	55-154630 (55. 11. 5) (清田 徹, 佐藤 孝男 菊地 光雄)	60-42253 (60. 9. 20)	1318109 (61. 5. 29)	陽イオン交換膜の製法	1 カルボン酸基になりうる基とスルホン酸基になりうる基を同時に有するパーフルオロカーボン重合体のフィルムとカルボン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体のフィルムをはり合せ、次いでカルボン酸基になりうる基およびスルホン酸基になりうる基を各々カルボン酸基およびスルホン酸基に転換することからなる陽イオン交換膜の製法。
23	56-25464 (56. 2. 25) (清田 徹)	60-44331 (60. 10. 3)	1319590 (61. 5. 29)	陽イオン交換膜の製造方法	1 スルホン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体からのフィルムとカルボン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体からのフィルムの間、カルボン酸基になりうる基とスルホン酸基になりうる基を有し、かつ、それらの組成比の異なるパーフルオロカーボン重合体からの少なくとも2種類以上のフィルムをカルボン酸基になりうる基の組成比の大きいフィルムがカルボン酸基になりうる基を有するパーフルオロカーボン重合体からのフィルムに近くなるようにそれぞれはり合せ、次いでスルホン酸基になりうる基およびカルボン酸基になりうる基を各々スルホン酸基およびカルボン酸基に転換することからなる多層状陽イオン交換膜の製造方法。
24	54-43274 (54. 4. 10) (久保 雅滋, 野中 悠次 木原 啓一) (味の素, 相模中央化学研究所と共願)	60-49199 (60. 10. 31)	1320625 (61. 6. 11)	α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法	1 夾雑物を含む α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを水性媒体中で Cl 型のアニオン交換樹脂と接触させ、夾雑物をこのアニオン交換樹脂に吸着させて除去することを特徴とする α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法。
25	56-77521 (56. 5. 21) (高木 弘義, 西岡 憲一 鈴木 一) (工業技術院, 日本化学陶業と共願)	59-39367 (59. 9. 22)	1320727 (61. 6. 11)	0.05~0.2 μ m の酸化ジルコニウム微粉体の製造方法	1 水溶性ジルコニウム塩の水溶液又は水溶性ジルコニウム塩とマグネシウム, カルシウム及びイットリウムの少なくとも1種とを含む水溶液にアンモニア水を加えて沈澱を形成させ、沈澱物を母液から分離した後、水洗し、次いでこれに有機溶媒を加え、加熱蒸溜した後、ジルコニウムを含む微粒子を有機溶剤から分離し、減圧下又は大気圧下で乾燥した後、300~1200°C で加熱処理することを特徴とする酸化ジルコニウム微粉体の製造方法。
26	52-55295 (52. 5. 16) (山本 勸助)	60-48707 (60. 10. 29)	1320852 (61. 6. 11)	電解工場における短絡スイッチの絶縁劣化検出方法	1 接地を撤去した短絡スイッチ鉄台と対地間に電圧計を設置して、短絡スイッチ鉄台に充電する充電電圧を該電圧計にて測定し、その電圧値より絶縁劣化を起した短絡スイッチを検出することを特徴とする電解工場における短絡スイッチの絶縁劣化検出方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
27	52-87246 (52. 7. 22) (坂本	60-48495 (60. 10. 28) 光久, 中村	1320854 (61. 6. 11) 重男)	メタクリル酸の製造法	<p>1 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、一般式 $Mo_aP_bAs_cCu_dCr_eX_fO_g$ (ここでXは Ce, Nd, W および Fe の中の少なくとも一種の元素を表わし、添字 a, b, c, d, e, f, g はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が、$a=12$ のとき、$b=0.5\sim 3.0$、$c=0.01\sim 1.2$、$d=0.01\sim 2.0$、$e=0.05\sim 2.0$、$f=0\sim 1.0$、g は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~58の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物を触媒として使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。</p> <p>2 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、一般式 $Mo_aP_bAs_cCu_dCr_eX_fO_g$ (ここでXは Ce, Nd, W および Fe の中の少なくとも一種の元素を表わし、添字 a, b, c, d, e, f, g はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が、$a=12$ のとき、$b=0.5\sim 3.0$、$c=0.01\sim 1.2$、$d=0.01\sim 2.0$、$e=0.05\sim 2.0$、$f=0\sim 1.0$、g は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~58の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物であつて、二塩基性カルボン酸類、オキシカルボン酸類、マンニツトおよびピロガロールのうちの少なくとも一種を添加して調製した触媒を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。</p>
28	52-87247 (52. 7. 22) (坂本	60-48496 (60. 10. 28) 光久, 中村	1320855 (61. 6. 11) 重男 谷口	メタクリル酸の製造方法	<p>1 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、モリブデン、リン、砒素、バナジウム、銅およびセリウムあるいはこれに更にクロムを含む、一般式 $Mo_aP_bAs_cV_dCu_eCe_fCr_gO_h$ (ここで添字 a, b, c, d, e, f, g, h はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が $a=12$ のとき、$b=0.5\sim 3.0$、$c=0.01\sim 1.2$、$d=0.01\sim 2.0$、$e=0.01\sim 2.0$、$f=0.01\sim 1.2$、$g=0\sim 2.0$、h は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~60の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物を触媒として使用することを特徴とするメタクリル酸の製造方法。</p> <p>2 メタクロレインを分子状酸素または分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に、モリブデン、リン、砒素、バナジウム、銅およびセリウムあるいはこれに更にクロムを含む、一般式 $Mo_aP_bAs_cV_dCu_eCe_fCr_gO_h$ (ここで添字 a, b, c, d, e, f, g, h はそれぞれ各元素の原子比を表わす。) に於てその組成が $a=12$ のとき、$b=0.5\sim 3.0$、$c=0.01\sim 1.2$、$d=0.01\sim 2.0$、$e=0.01\sim 2.0$、$f=0.01\sim 1.2$、$g=0\sim 2.0$、h は各元素の原子価により自然に定まる数値で通常37~60の値をとる、で表わされる多元系の複合酸化物であつて、二塩基性カルボン酸類、オキシカルボン酸類、マンニツトおよびピロガロールのうちの少なくとも一種を添加して調製した触媒を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造方法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
29	53-65714 (53. 6. 2) (小泉 村田)	60-49132 (60.10.31) (光恵, 上田 寛志)	1320864 (61. 6. 11) 智	高純度モルデナイト型 結晶性ゼオライトの製 造法	1 $\text{Na}_2\text{O}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ からなる系からモルデナイト型結晶性ゼオライトを製造する方法において、反応系の組成をモル比で表わして、 $\text{SiO}_2/\text{Al}_2\text{O}_3:182\sim 586$, $\text{Na}_2\text{O}/\text{Al}_2\text{O}_3:59\sim 133$, $\text{H}_2\text{O}/\text{Al}_2\text{O}_3:1765\sim 8000$ の範囲で反応を行うことを特徴とする高純度モルデナイト型結晶性ゼオライトの製造法。
30	56-64271 (56. 4. 30) (鳴井 坂中)	60-50362 (60.11. 8) (衛, 中川 靖弘)	1320916 (61. 6. 11) 辰司	クロロスルホン化ポリ エチレンの製法	1 ポリエチレンを溶媒に溶解し、これに塩素と塩化スルフリルまたは塩化スルフリルを単独で反応させてクロロスルホン化ポリエチレンを製造するに際し、溶媒として四塩化炭素とハロゲン化芳香族化合物からなり、後者の比率がその総量の0.5~20重量%である混合溶媒を用いることを特徴とするクロロスルホン化ポリエチレンの製法。
31	56-84413 (56. 6. 3) (伊原 川嶋 崎山 (橋本功二と共願)	60-46186 (60.10.15) (義尚, 橋本 朝日, 榑 和孝)	1320917 (61. 6. 11) 功二 孝	非晶質金属表面の活性 化方法	1 非晶質金属表面に亜鉛を拡散浸透させ、しかる後、アルカリ又は酸溶液で浸透亜鉛を選択的に浸出することを特徴とする非晶質金属表面の活性化方法。
32	53-150511 (53.12. 7) (坂本 関沢)	59-53096 (59.12.22) (光久, 田中 和彦, 木原)	1323055 (61. 6. 27) 哲夫 啓一)	メタクリル酸製造用触 媒	1 メタクロレインを気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に用いる触媒にして、pH 5 以下の塩酸、硫酸あるいは硝酸酸性下に沈澱生成せしめて分離した砒素モリブデン酸アンモニウム、あるいは砒素モリブデン酸アンモニウムおよびリンモリブデン酸アンモニウムを用いて調製した 式 $\text{Mo}_a\text{As}_b\text{P}_c(\text{NH}_4)_d$ (ここで a, b, c, d はそれぞれ Mo, As, P, (NH_4) の原子比を表わし、 $a=12$ のとき、 $b=0.1\sim 4$, $c=0\sim 2$ (ただし、 $b+c=0.5\sim 3$), $d=0.01\sim 3$ である。) で表わされる触媒。
33	56-133773 (56. 8. 25) (高木 鈴木 (工業技術院, 日本化学陶業 と共願)	60-49140 (60.10.31) (弘義, 西岡 憲一)	1325168 (61. 6. 27) 憲一	酸化錫系微粉体の製造 方法	1 水溶性錫塩の水溶液又は水溶性錫塩とアンチモン、インジウム、ガリウム及びビスマスの少なくとも1種とを含む水溶液を pH 6 以下で加水分解することによりコロイド粒子を生成させ、次いでこれに有機溶媒を加え、加熱蒸留した後、錫を含む微粒子を有機溶媒から分離し、減圧下又は大気圧下で乾燥した後、 $30\sim 1200^\circ\text{C}$ で加熱処理することを特徴とする酸化錫系微粉体の製造方法。 2 水溶性錫塩の水溶液又は水溶性錫塩とアンチモン、インジウム、ガリウム及びビスマスの少なくとも1種とを含む水溶液にアンモニア水を加えて沈澱を形成させ、該沈澱物を母液から分離した後、水洗し、次いでこれに有機溶媒を加え、加熱蒸留した後、錫を含む微粒子を有機溶媒から分離し、減圧下又は大気圧下で乾燥した後、 $300\sim 1200^\circ\text{C}$ で加熱処理することを特徴とする酸化錫系微粉体の製造方法。
34	55-74178 (55. 6. 4) (新海 征治, 真鍋 修)	60-52742 (60.11.21)	1327962 (61. 7. 30)	カルボン酸類の製造方 法	1 一般式 $\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{R}_1-\text{C}-\text{H} \end{array}$ であらわされるアルデヒド類 (但し式中 R_1 は

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>置換基を有することのある芳香族または脂肪族アルキル基をあらわす) をチアゾリウム塩およびイソアロキサジン化合物の存在下に反応させ、生成する一般式</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>であらわされる活性アシル化合物 (式中 R₁ は前記同様の意味であり, R₂, R₃, R₄ はチアゾリウム環への置換基, X⁻ は陰イオンをあらわす) を水と反応させることを特徴とする一般式</p> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{R}_1-\text{C}-\text{OH} \end{array}$ </div> <p>(式中 R₁ は前記同様の意味を表わす) で表わされるカルボン酸類の製造方法。</p>
35	57-215246 (57.12.8)	60-55444 (60.12.5)	1328900 (61.7.30)	アルミナ微粉体の製法 (高橋 弘義, 鈴木 一) (工業技術院と共願)	1 アルミニウム塩, マグネシウム塩及びジルコニウム塩を含む水溶液と炭酸アンモニウム水溶液を反応させ, 得られた生成物を加熱分解することを特徴とするジルコニアを含むアルミナ微粉体の製法。
36	52-139414 (52.11.22)	60-36439 (60.8.20)	1329916 (61.8.14)	トリエチレンジアミンの分離回収方法 (大槻 進, 山田 静夫, 小埜谷一郎)	1 アルキルピラジン類を含むトリエチレンジアミン溶液に水を添加し, 該溶液よりアルキルピラジン類を水と共に共沸留法することを特徴とするトリエチレンジアミン類の分離回収方法。
37	52-45888 (52.4.22)	60-55528 (60.12.5)	1333861 (61.8.28)	硫黄変性クロロプレン重合体の製造方法 (鳴井 衛, 坂中 靖弘, 清水 明彦)	1 クロロプレンないしはクロロプレン及びこれと共重合しうる単量体との混合物を硫黄の存在下に水性乳化重合して得られる重合体に, その0.1~3.0重量%のテトラアルキルチウラムジスルフィドとその0.01~1.0重量%のジチオモルホリン化合物を加えて解膠し, ついで解膠された重合体を分離, 乾燥することを特徴とする硫黄変性クロロプレン重合体の製造方法。
38	52-45889 (52.4.22)	60-55528 (60.12.5)	1333862 (61.8.28)	硫黄変性クロロプレン重合体の製造法 (鳴井 衛, 坂中 靖弘, 清水 明彦)	1 クロロプレンないしは, クロロプレン及びこれと共重合し得る単量体との混合物を硫黄の存在下に水性乳化重合して得られる重合体にその0.1~3.0重量%のテトラアルキルチウラムジスルフィドとその0.01~10.0重量%のヒドロキシ基を有するエチレン性不飽和化合物を加えて解膠し, ついで解膠された重合体を分離, 乾燥することを特徴とする硫黄変性クロロプレン重合体の製造法。
39	52-45890 (52.4.22)	60-55530 (60.12.5)	1333863 (61.8.28)	硫黄変性クロロプレン重合体の製法 (鳴井 衛, 坂中 靖弘, 清水 明彦)	1 クロロプレンないしは, クロロプレン及びこれと共重合し得る単量体との混合物を硫黄の存在下に水性乳化重合して得られる重合体にその0.1~3.0重量%のテトラアルキルチウラムジスルフィドとその0.01~5.0重量%のポリアルキレングリコールを加えて解膠しついで解膠された重合体を分離, 乾燥することを特徴とする硫黄変性クロロプレン重合体の製法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
40	52-98222 (52. 8. 18) (大深 水井)	60-58740 (60. 12. 21) (梯佑, 宮之原 規雅)	1333880 (61. 8. 28)	ポリエチレンポリアミンの製造法	1 全アミン濃度が10~50重量%であるエチレンジアミンとジエチレントリアミンの混合水溶液とその全アミン1モル当り0.1~0.5の二塩化エタンを反応させることを特徴とするトリエチレンテトラミン, テトラエチレンペンタミンおよびより高沸点のポリエチレンポリアミンの製造方法。
41	53-32401 (53. 3. 23) (川上 平野)	60-58282 (60. 12. 19) (登, 後藤 逸雄, 河原)	1333902 (61. 8. 28)	冶金用添加剤の製造方法	1 金属マグネシウム及び/又はマグネシウム合金を加熱して得たマグネシウム蒸気を, 一酸化炭素を含む気体と接触させて冷却して酸化マグネシウム含有のマグネシウムを得ることを特徴とする冶金用添加剤の製造方法。
42	53-33042 (53. 3. 24) (後藤 平野)	60-58283 (60. 12. 19) (武司, 川上 逸雄, 河原)	1333903 (61. 8. 28)	冶金用添加剤の製造法	1 炭酸マグネシウム及び/又は酸化マグネシウムと炭酸カルシウム及び/又は酸化カルシウムとを含む原料を炭素質の存在下で高温還元し得られるマグネシウムガスを含む反応物を急冷して得られる生成物を捕集する事を特徴とする冶金用添加剤の製造法。
43	53-114551 (53. 9. 20) (鳴井 衛, 坂中)	60-59248 (60. 12. 24) (衛, 坂中)	1333929 (61. 8. 28)	キサントゲン変性クロロプレン重合体の製造法	1 クロロプレンないしは, クロロプレン及びこれと共重合しうる単量体との混合物をその0.1~5.0重量%のキサントゲン化合物とその0.05~5.0重量%の多価アルコールとの存在下に水性乳化重合することを特徴とするクロロプレン重合体の製造法。
44	56-51769 (56. 4. 8) (西崎)	59-52174 (59. 12. 18) (克巳, 森下)	1334044 (61. 8. 28)	接着方法	1 塩化ビニル系樹脂と塩化ビニル系樹脂あるいは他の基材を接着する方法において, 酢酸ビニル含有量30~65重量%, メルトインデックス10~400 g/10 min のエチレン-酢酸ビニル共重合体, ケン化度が1~50%である上記エチレン-酢酸ビニル共重合体のケン化物および酸価が0.1~100 mgKOH/g である上記エチレン-酢酸ビニル共重合体のカルボキシル変性物から選ばれる1種または2種以上を接着剤として用いることを特徴とする接着方法。
45	57-81544 (57. 5. 17) (伊原)	60-56409 (60. 12. 10) (義尚)	1334072 (61. 8. 28)	電解陰極用表面活性化非晶質合金	1 P, Si, B およびCのいずれか一種あるいは二種以上4~35原子%を含み, 残部が Ni および Co の中から一種あるいは二種からなる電解陰極用表面活性化非晶質合金。 2 P, Si, B およびCのいずれか一種あるいは二種以上4~35原子%を含み, かつ, 1 Fe を65原子%以下 2 Cu, Mo, Cr, Mn およびVの一種あるいは二種以上, 55原子%以下 3 Al, Zn および Sn の一種または二種以上, 40原子%以下 4 Pt, Ru, Rh, Pd, Ir, Ag および Au のいずれか一種または二種以上, 30原子%以下の群のうちから選ばれた一群または二群以上の合計量で, 65原子%以下含有し, 実質的残部として15原子%以上の Ni および Co の中から一種または二種を含み, 全体を100原子%とする電解陰極用表面活性化非晶質合金。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
46	52-88862 (52. 7. 6)	61-1170 (61. 1.14)	1336691 (61. 9.11)	吸着剤および吸着剤成型体	1 水酸化マグネシウムを 350~800°C で、かつ、含水率が3~20%になるよう焼成することを特徴とする吸着剤。 2 水酸化マグネシウムと結合剤とを混練し造粒した後に、350~800°C で、かつ、含水率が3~20%になるよう焼成することを特徴とする吸着剤成型体。
	(宮之原 勲, 河村 秀雄 宮崎 弘)				
47	53-113671 (53. 9.18)	61-3821 (61. 2. 4)	1336711 (61. 9.11)	クロロプレン重合体組成物	1 クロロプレンないしは、クロロプレンおよびこれと共重合しうる単量体との混合物を、その0.05~5.0重量%の分子量調節剤を用いて水性乳化重合する際に、重合開始時に存在させる分子量調節剤の40~70重量%相当量を、重合転化率が40~60%に達した時一括添加して重合を行い、最終重合転化率80%以上で得たベンゼン可溶性クロロプレン重合体Aとクロロプレンないしは、クロロプレンおよび多官能性単量体との混合物を、水性乳化重合して得たゲル状クロロプレン重合体Bとを、A対Bの割合で20:1~1:1の範囲に混合してなるクロロプレン重合体組成物。
	(鳴井 衛, 坂中 靖弘)				
48	54-71198 (54. 6. 8)	61-3813 (61. 2. 4)	1336718 (61. 9.11)	ポリエチレン又はエチレン共重合体の塗装成型物	1 ポリエチレン、エチレンエチルアクリレート共重合体又はエチレン酢酸ビニル共重合体からなる基材上にポリブタジエン、カルボキシル化エチレン共重合体、エチレン酢酸ビニル共重合体、クロロプレンゴム及びスチレンブタジエンブロック共重合体からなる群より選ばれた一種以上の高分子重合体50~90重量%と芳香族系炭化水素樹脂、脂肪族系炭化水素樹脂、芳香族脂肪族共重合樹脂、ロジン及びロジン誘導體からなる群より選ばれた一種以上の粘着化性樹脂10~50重量%とからなる 0.5~50 g/m ² のプライマー層を形成し、かつその上面にセルロース誘導體塗料、アミノアルキッド樹脂系塗料、油性漆塗料、ビニル樹脂系塗料、ポリエステル樹脂系塗料、エポキシ樹脂系塗料、又はアクリル樹脂系塗料からなる塗膜を形成してなるポリエチレン又はエチレン共重合体の塗装成型物。
	(大友 寛二, 藤木 時男)				
49	54-149584 (54.11.20)	61-858 (61. 1.11)	1336719 (61. 9.11)	アルカリ金属ハロゲン化物電解用陽イオン交換膜	1 一方の層に膜厚の5~30%の厚さでカルボン酸基を有し、他方の層に膜厚の5~30%の厚さで該層の全交換基量の10%以上の割合でカルボン酸基を有し、かつ中央の層にスルホン酸基を有するアルカリ金属ハロゲン化物電解用陽イオン交換膜。
	(清田 徹, 佐藤 孝男 菊地 光雄)				
50	56-53235 (56. 4.10)	61-3398 (61. 1.31)	1336734 (61. 9.11)	塩化アルカリ水溶液の電解方法	1 陰極側に交換容量 0.8 meq/g 以上のカルボン酸基を有したパーフルオロカーボン重合体からなる陽イオン交換膜を介して陽極、陰極を備えた電解槽の陽極室に塩化アルカリ水溶液を供給して電解し、陽極室より塩素、陰極室より水素、並びに苛性アルカリを製造する方法において、陰極側に電氣的触媒粒子を有した含水率25~60%の隔膜を陰極と陽イオン交換膜の間に介在させ、且つ陰極室から40%以上の苛性アルカリを得ることを特徴とする塩化アルカリ水溶液の電解方法。
	(佐藤 孝男, 清田 徹)				

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
51	56-168580 (56.10.23) (相本)	61-3285 (61.1.31) 道行, 宮崎	1336743 (61.9.11) 弘)	懸濁安定性に優れた結晶性アルミノシリケート水性スラリー	1 一般式 $\text{Na}_2\text{O} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot n\text{SiO}_2 \cdot w\text{H}_2\text{O}$ (n は1.8~3, w は1~6を表わす)で表わされる結晶性アルミノシリケートが, 無水物換算で30~52重量%の範囲で存在する水性スラリーに高分子量のポリスチレンスルホン酸塩及び/又はスチレンスルホン酸塩とカルボン酸又はその塩との共重合体を含有してなる懸濁安定性に優れた結晶性アルミノシリケート水性スラリー。
52	54-40170 (54.4.3) (小山 野中 木原 啓一) (味の素, 相模中央化学研究所と共願)	61-5399 (61.2.18) 清孝, 西村 悠次, 橋本 勉	1339790 (61.9.29) 滋哲 勉	N-置換アスパルチルフエニルアラニン低級アルキルエステルの製造方法	1 N-置換アスパラギン酸とフェニルアラニン低級アルキルエステルを水分を含有した固定化金属プロテイナーゼの存在下, 水と混和しない有機溶媒中で反応させることを特徴とするN-置換アスパルチルフエニルアラニン低級アルキルエステルの製造方法。
53	54-172605 (54.12.29) (清田 徹, 高橋 堅二)	61-5491 (61.2.19)	1340619 (61.10.14)	陽イオン交換膜のイオン交換容量増大方法	1 置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{A}$ ($n=2\sim5$, Aは-CN, -COF, $-\text{COOR}_1$, $-\text{COOM}$, 又は $-\text{CONR}_2\text{R}_3$ であり, R_1 は炭素1~10のアルキル基, R_2R_3 は水素原子, 又は R_1 であり, MはH, アルカリ金属又はアンモニウム基である), 及び/又は置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{SO}_2\text{B}$ ($n=2\sim5$, Bはハロゲン原子, OM でありMはH, アルカリ金属又はアンモニウム基である)を含むフッ素系共重合体を膜状物に成型した後, 該 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{A}$ 基及び/又は $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{SO}_2\text{B}$ より置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{I}$ を導き, 置換基 $-\text{O}(\text{CF}_2)_n\text{I}$ 基に付加又はカップリングする官能基を有し, 更に多価カルボン酸基又は多価カルボン酸基になりうる基を有するフロロカーボン化合物を作用させることを特徴とする陽イオン交換膜のイオン交換容量増大方法。
54	52-91476 (52.8.1) (大槻 進, 山田 静夫)	61-5762 (61.2.21)	1343421 (61.10.29)	重金属吸着剤	1 二塩化エタンとアンモニウムをモル比1:15~30の割合で反応塔に供給し, 反応温度75~175°C, 反応圧力 50~130 kg/cm ² の下で反応させた際に得られる固形物を固液分離器により分離し, 水洗し, 乾燥して得た樹脂状固形物であつて見掛比重0.2を有し, 粒度60~30メッシュの範囲のものが60重量%以上を占め, 炭素, 水素, 塩素, 窒素からなり, 塩素2~3重量%, 窒素7~8重量%を含む樹脂状固形物からなる重金属吸着剤。
55	54-129517 (54.10.9) (馬場 信行)	61-7250 (61.3.5)	1343441 (61.10.29)	誘電率検出器	1 一對の電極を対じさせたフロー型検出セルでコンデンサーを作り, これをインダクタンスと組み合わせて発振器を構成する検出器において, 熱交換機を構成するブロック面上に保護プレートを通じて一對の液流路を形成するテフロンスペーサーが前記一對の液流路への入出孔を有するガスケットと不導電性物質とに挾持され, かつ, 陽極が前記不導電性物質の前記一對の液流路の対面において, 金属メッキされて形成され, 陰極が前記ガスケットより成り, さらにガスケットの入孔と熱交換機を構成するブロックが内蔵している導通孔とが連通して構成されたことを特徴とする誘電率検出器。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
56	54-150022 (54. 11. 21) (赤沢 松本)	61-7476 (61. 3. 6) 道博, 山口 叔博)	1343442 (61. 10. 29) 章	陽イオン交換膜法における塩水中の塩素酸ソーダおよび硫酸ソーダの同時蓄積防止方法	1 陽イオン交換膜電解槽の陽極室より流出する希薄未反応塩水中の塩素酸ソーダ濃度が5~30g/l, 硫酸ソーダ濃度が10~40g/lとなつたとき, 該希薄未反応塩水の0.3~5容量%をソルベータ法塩水精製工程へ供給し, かつ, 残余の主循環希薄未反応塩水を飽和塩水用として用いることを特徴とする陽イオン交換膜法における塩水中の塩素酸ソーダおよび硫酸ソーダの同時蓄積防止方法。
57	54-110388 (54. 8. 31) (近藤 赫文)	61-11747 (61. 4. 4)	1345777 (61. 10. 29)	多孔性砥石	1 エチレン-酢酸ビニル共重合体のケン化物又はエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の変性物を脂肪族又は芳香族アルデヒドと反応させて得られる樹脂を結合材として成ることを特徴とする多孔性砥石。
58	54-75371 (54. 6. 15) (小山 久保 中村 山谷 (味の素, 相模中央化学研究 所と共願)	61-12917 (61. 4. 10)	1346569 (61. 11. 13)	α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの回収法	1 少なくとも夾雑物として3-ベルジル-6-カルボキシメチル-2,5-ジケトピペラジンを含む水性溶液から α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを晶析させるに当り, この水性溶液に塩基性物質を加えてその液性を pH 4.5 を越え, かつ8以下の値とした後, 結晶析出させ, 析出した結晶を単離することを特徴とする α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの回収法。
59	54-75372 (54. 6. 15) (平木 菊池 野中 成瀬 (味の素, 相模中央化学研究 所と共願)	61-12918 (61. 4. 10)	1346570 (61. 11. 13)	α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法	1 夾雑物を含む α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを精製する方法において, (A) 夾雑物を含む α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを水性溶液中で塩型のアニオン交換樹脂と接触させて夾雑物をアニオン交換樹脂に吸着させ, これをアニオン交換樹脂とともに分離して除去する工程; (B) アニオン交換樹脂と分離した水性溶液から精製 α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを晶析させ, これを母液と分離して回収する工程; (C) (B)工程で得た母液を濃縮し, これから α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルを晶析させて回収する工程; および (D) (C)工程で得られた α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステル結晶を再び水性溶液とし, これを塩型のアニオン交換樹脂と接触させるために(A)工程に循環する工程 からなることを特徴とする α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
60	54-76082 (54. 6. 16)	61-12919 (61. 4. 10)	1346571 (61. 11. 13)	α -L-アスパルチル-L- -フェニルアラニン低 級アルキルエステルの 精製法	1 夾雑物として少なくとも3-ベンジル-6-カルボキシメチル-2,5-ジケトピペラジンを含む α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの結晶を、pH 4.5 を越えかつ8以下の液性の水性媒体と、結晶中の3-ベンジル-6-カルボキシメチル-2,5-ジケトピペラジンの実質的部分が溶出する充分な時間接触させることを特徴とする α -L-アスパルチル-L-フェニルアラニン低級アルキルエステルの精製法。
61	54-751 (54. 1. 10)	61-12844 (61. 4. 10)	1349943 (61. 11. 28)	高純度窒化珪素の製造 法	1 四塩化珪素とアンモニアとを不活性雰囲気下、気相で、0~70°C で反応させて得られた含窒素シラン化合物と塩化アンモニウムとの混合物を、アンモニアの存在下で 400°C 以上で加熱処理することを特徴とする、高純度窒化珪素の製造法。
62	55-2135 (55. 1. 14)	61-12845 (61. 4. 10)	1349964 (61. 11. 28)	硫酸法湿式リン酸の精 製方法	1 ブタノール類を溶剤とする溶媒抽出法による硫酸法湿式リン酸の精製方法において、 (a) 抽出工程に供給する硫酸法湿式リン酸の P_2O_5 が 35 wt% 以上であり、 (b) 抽出工程の抽出液排出段からかぞえて5段目以上かつ抽残液排出段からかぞえて2段目以上の段に、グラム当量数で、抽出工程に供給する硫酸法湿式リン酸中の陽イオン不純物の総量と洗浄工程に添加する下記ナトリウム化合物等のナトリウム等の総量との和の1.2~2.0倍から抽出工程に供給する硫酸法湿式リン酸中の硫酸の量を差し引いた量の硫酸を添加し、 (c) 抽出工程から排出される抽出液中の H_3PO_4 濃度が 130~180 g/l であり、 (d) 洗浄工程における溶剤相に対する高純度リン酸水溶液の供給量を0.05~0.2容量倍とし、かつ、該工程の溶剤相排出段からかぞえて2段目以上かつ水相排出段からかぞえて2段目以上の段に、ナトリウム化合物等のすくなくとも1種を、それを添加する段の水相のナトリウム等の濃度が 0.4 g 当量/l 以上となるように添加する。 ことを特徴とする、硫酸法湿式リン酸の精製方法。
63	55-131593 (55. 9. 24)	61-14082 (61. 4. 17)	1349986 (61. 11. 28)	熱安定化されたA型ゼ オライトの製造法	1 ナトリウムA型ゼオライトとカルシウムイオンを含む水溶液とを接触させて前記ゼオライト中のナトリウムイオンをカルシウムイオンに交換する際に、該イオン交換時の、上記ゼオライトと接触している水溶液の pH を11.3~11.9の範囲に保持させることを特徴とする熱安定化されたA型ゼオライトの製造法。
64	56-67610 (56. 5. 7)	61-16291 (61. 4. 30)	1350002 (61. 11. 28)	フルオロカーボン重合 体の溶液	1 スルホニル基含有フルオロカーボン重合体のリン酸ヘキサメチルトリアミド溶液。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
65	56-70117 (56. 5. 12)	61-16292 (61. 4. 30)	1350003 (61. 11. 28)	フルオロカーボン重合体の溶液	1 カルボキシル基および／又はカルボキレート基含有フルオロカーボン重合体のリン酸ヘキサメチルトリアミド溶液。
	(松井 清英, 飛田 悦子 小林 宣男, 近藤 聖 朱山 秀雄, 川崎 信弘 斉藤 光高) (相模中央化学研究所と共願)				
66	51-146160 (51. 12. 7)	59-30792 (59. 7. 28)	1350419 (61. 11. 28)	陽イオン交換膜の水酸イオン透過阻止性の向上方法	1 カルボン酸基を含む均質陽イオン交換膜を有機溶媒で膨潤させ次いで該溶媒を該膜から除去し、そのまま使用することを特徴とする、陽イオン交換膜の水酸イオン透過阻止性の向上方法。
	(浅海 俊一, 清田 徹 清水 明彦)				
67	53-42152 (53. 4. 12)	61-15860 (61. 4. 26)	1350460 (61. 11. 28)	含フッ素不飽和エーテルの製法	1 一般式 $\text{CF}_2\text{C}(\text{Cl})\text{CFCl}-\text{CF}_2-\text{O}-(\text{CXY}-\text{CF}_2\text{O})_n$ $-\text{CXY}-\overset{\text{O}}{\parallel}{\text{C}}-\text{Z}$ (1) (XおよびYはフッ素またはトリフルオロメチル基。Zはフッ素, ヒドロキシ基, アルコキシ基, または OM 基。Mはアルカリ金属。nは0~50の整数)で示される化合物を脱塩素化反応を行なうことにより, 一般式 $\text{CF}_2=\text{CF}-\text{CF}_2-\text{O}-(\text{CXY}-\text{CF}_2\text{O})_n$ $-\text{CXY}-\overset{\text{O}}{\parallel}{\text{C}}-\text{Z}$ (2) (X, Y, Z およびnは前記と同じ)を得ることを特徴とする含フッ素不飽和エーテルの製法。
	(近藤 赫文, 柳原 忠久)				
68	54-10317 (54. 2. 2)	60-56178 (60. 12. 9)	1350486 (61. 11. 28)	ポリエチレン又はエチレン共重合体の塗装成型物	1 ポリエチレン, エチレンエチルアクリレート共重合体又はエチレン酢酸ビニル共重合体からなる基材上にポリブタジエン, カルボキシル化エチレン共重合体, エチレン酢酸ビニル共重合体, クロロプレンゴム及びスチレンブタジエンブロック共重合体からなる群より選ばれた一種以上の高分子重合体50~90重量%と芳香族炭化水素樹脂, 脂肪族炭化水素樹脂, ロジン及びロジン誘導体からなる群より選ばれた一種以上の粘着性樹脂10~50重量%とからなる0.5~50 g/m ² のプライマー層を形成し, かつ, その上面にポリウレタン塗膜を形成してなるポリエチレン又はエチレン共重合体塗装成型物。
	(大友 寛二, 藤木 時男)				
69	56-149614 (56. 9. 24)	61-11885 (61. 4. 5)	1350535 (61. 11. 28)	窒化珪素粉末の製造方法	1 含窒素シラン化合物を加熱分解して窒化珪素を製造する方法において, 加熱分解を行なうに際し, 1350°C~1550°Cの温度範囲全域における昇温速度を毎分 15°C 以上に制御し, 1550° 以上 1700°C 未満にまで加熱することを特徴とする窒化珪素粉末の製造方法。
	(長田 真司, 笠井 清 月館 隆明)				
70	55-62747 (55. 5. 14)	61-21489 (61. 5. 27)	1353299 (61. 12. 11)	石油樹脂水性エマルジョン	1 芳香族系石油樹脂100重量部に対し, 乳化剤として(a)ポリアクリル酸の水溶性塩0.01~10重量部ならびに(b)ロジン酸の水溶性塩もしくは不均化ロジン酸の水溶性塩0.5~20重量部及び／又は(c)一般式 R ₁ -(O-R ₂) _n OH (但し, 式中
	(新谷 孝司, 玉野 信夫 村山 浩)				

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					R ₁ は炭素数 8～18のアルキル基又は炭素数 8～16のアルキル基を有するアルキルフエニル基, R ₂ は炭素数 2のアルキレン基, nは 6～20の整数を示す。) で表わされる化合物の 1種以上0.5～20重量部を含有して成る芳香族系石油樹脂水性エマルジョン。

〈実用新案〉 1件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
1	58-113350 (58. 9. 11) (岩淵 節男, 中村 豊)	60-30285 (60. 9. 11)	1636287 (61. 5. 13)	吊り具	多段に積重ねた袋体貨物等を, その積重ねた荷姿のまま一括搬送するに用いられ, 底部に形成されたスリットを引抜き手を介して拡開させることにより該袋体貨物等の下から抜き取られて該袋体貨物をその荷姿のまま荷解きできる搬送具を, その4箇所に設けられた吊り手を介して吊り上げる吊り具において, 前記吊り具は, クレーン等のフックに索部材を介して水平に吊持される剛性の枠体と, 前記枠体から夫々離隔して吊り下げられ前記吊り手に掛けられる4個で一組の荷吊り用フックと, 前記荷吊り用フックと同じ箇所で前記枠体から吊り下げられ, 前記引抜き手を通して先端部に形成した輪状部を前記荷吊り用フックに掛けるようにした4本一組の長尺の補助ロープとを備え, 前記荷吊り用フックおよび補助ロープを少なくとも一組以上設けるとともに, 各組の荷吊り用フックの間隔を, 前記各吊り手の間隔と略等しくしたことを特徴とする吊り具。